

令和3年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第五中学校 第3学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	授業に対しては前向きに、関心を持って取り組む生徒が多い。わからないことをそのままにしないという姿勢が育ってきている。また、よく本を読み、長文に対しての抵抗も少なくなってきた。授業で取り組んだ内容に関する理解度は高いが、その知識を応用したり、活用するといった部分に課題が残る。そのとき限りの知識の定着ではなく、継続して活用できるような授業展開を行っていく。	文章などを書いたり、自分の意見を発表させたりと、自分の意見を表現する場面を多く設定し、その活動のなかで、一度定着させた知識を活用していくように指導を行う。文学的文章や説明的文章を読んだ後には特にその文章の特徴や工夫をとらせさせ、それを自らの表現に取り込んで活用していくことを意識させていく。	他者の意見をふまえて自分の考えを深めるといったことができるようになったと感じている生徒が多い。文章の読み取りも、方法をしっかりと教えると、自分なりに前向きに取り組んだり、しっかりと要旨をくみ取ることができるようになっていた。
社会	積極的に課題に取り組み、授業に関わろうとする意欲的な生徒が多く見られる。しかし、発言となると自らの意見に自信が持てず、特定の生徒のみの発言に偏ってしまう。多くの生徒が自分の意見を発信しやすい雰囲気、環境づくりを行っていく必要がある。また、時事問題に関心がある生徒も多いため、公民の学習では、新聞記事などを用いて、学習内容と世の中の出来事が関連しているという実感を持たせていきたい。	挙手をして発言するというスタイルに抵抗がある生徒も多くいるので、タブレットなどの電子機器を活用し、自分の意見を発信したり、より良い社会を構築するためのアイデアを出しあったりする活動を行う。また、興味関心のあるテーマを調べる学習を行うことで、生徒の興味関心を深めていく。	公民を学びながら、時事問題に興味関心を持たせることを目標に授業を行ってきた。家庭でニュースを見たり、保護者とニュースの話題で話したりする生徒が多くなった。公民は難しいという先入観があったが、世の中と関連するものだと分かり、勉強に励む生徒が多くなった。
数学	授業には真剣に臨み、粘り強く問題に取り組む生徒が多い。学力調査の結果から、「関数」や「相対度数」などの用語の理解ができていない生徒が比較的多いことがわかった。また、「資料の活用」の領域の理解が不十分な生徒が多い。アンケートの結果から「数学の有用性」を感じられていない生徒が比較的多いという結果がみえる。	用語を教える際には、ただの暗記にならないように、その用語が必要な背景や、使い方などの説明も行うようにする。「資料の活用」については重点的に復習を取り入れるようにする。また、普段の生活と数学を結び付ける場面をより多く設定し、意欲を高めた。また、学力調査から見た、苦手分野については授業の中で復習する場面を設ける。	学年のまとめの問題演習の際に、「資料の活用」の部分の復習を行い定着を図ることができた。校舎の高さを実際に校庭に出て、相似を利用して測り、数学と生活と結びつける授業を行うことができた。更にそのような場面を増やしていくことが課題である。
理科	実験・観察に対する興味や関心が高い生徒が多いため、主体的に学習に臨むことができていく。しかし、計算や表現力など論理的に考えて説明したり、まとめるといったことに苦手意識を持っている。また、既習事項の定着が不十分なこともあり、定期検査や実力テストなどの正答率が低いことも課題である。	・主体的に学習に取り組むことができる生徒が多いため、協働学習などを通してお互いに学び合える場を設け、苦手意識を克服できるようにしていく。 ・計算問題や応用問題については、問題演習の回数を増やし、様々なパターンを解いていくことで経験を積み、課題解決力を養っていく。 ・ICT機器を活用し、効率よく既習事項の復習を行っていく。	・様々なツールを活用し、協動的な学習を多く取り入れることができた。また、定期的な小テストや単元ごとに復習できる問題を解くことで、課題を解決する知識や技能を身に付けることができた。ICT機器の利用法を工夫し、協動的な学習をより円滑に進めていくことが今後の課題である。
音楽	鑑賞分野においては、考えたことや感じたことを表現できる生徒も増えたが、個人差が感じられる。アムリコーダーの練習など個人でコツコツと取り組むことはできている。全体的に落ち着いて集中力も高い。昨年度の表現活動が少なかったせいか、演奏の表現力弱い。	鑑賞において、自分の感じたことを言葉で表現するという活動を定期的に取り入れていく中で、具体的な説明を行い、表現できるようにしていく。楽典においては、合唱、器楽曲を行う度に触れて、繰り返し学習することで定着させていく。昨年度苦手としていた歌唱では、意欲的に取り組めるような声かけや発表を行っていく。	鑑賞においては、自分の考えを具体的に表現できる生徒が増えた。楽典においても、一定の力は身に付いたと思われる。歌唱では、合唱コンクールを通して、意欲的に取り組める生徒が増えた。
美術	・意欲的に制作に取り組む生徒が多い。 ・自身で見通しをもち、計画的に制作することが苦手な生徒が多い。 ・自身の内面的な表現活動に対して、苦手に感じている生徒が少なくない。 ・友達などの作品鑑賞に対して意欲的に取り組む生徒が多い。	・自身の考えや思いを作品に反映しやすいテーマを選択するとともに、ICT等を活用し常に鑑賞しやすい環境を提供する。 ・お互いの作品よいところに気付くように単元毎にそれぞれの作品鑑賞の時間を設定する。	・各単元の作品に対する制作意欲が高まっているが、時間内に作品を仕上げるといった見通しをもって計画的に制作を進めることに課題が残る。 ・同年代が制作した作品を鑑賞することで更に制作意欲が高まってきている。今後は参考作品の提示のタイミングやICT機器の積極的な活用し自身の考えを深められるようにしていく。
保健体育	体育分野については関心が高く、意欲的に活動できる生徒が多い。各自が個人の目標を持ち、運動が苦手な生徒でも、自分で考え、課題に取り組むことができている。裁縫実習がスタートし、進捗状況に個人差がみられるようになってきた。個別指導が必要である。	授業のなかで、生徒が自分達で考えて解決していく展開を進めていく。個人で目標設定をしたり、種目を選択することで、さらに意欲的に自分に合った授業の内容、進め方を考えていく。本年度もオリパラ教育に取り組む、幅広い視野を持つ生徒の育成に努める。体育分野、保健分野から、健康・安全に関して、深く追及する。	実技では、各種目の内容が試合やゲーム中心に進めていたが、1・2年生の内容がおおむね覚えている生徒が多かったため、スムーズに試合を進めることができた。チームワークを意識して努める内容で終えることができた。保健分野では、水や環境といった身近な内容で、健康についてもしっかりと取り組めた。
技術・家庭	【技術】授業内容を理解し自ら発展に向けた時間を確保できることを求める。 【家庭】授業に意欲的に取り組んでいる生徒が多い。また、将来的な考えをもって取り組んでいる生徒も多い。裁縫実習が始まり、進捗状況に個人差がみられるようになってきた。個別指導が必要である。	【技術】実践的な内容が主なので家庭でも時間をとって復習できるとよい。 【家庭】裁縫実習は、今まで学んできた内容の復習ではあるが、縫い方などの補足的な部分は適宜時間を区切って見本を見せたり、ICTを使って手元が大きく映るようにする。また、進み具合によっては放課後の補修も考えている。	【技術】後半の授業で対面的な取り組みができず計画通りの進捗が望めなかった。【家庭】裁縫実習は、想像以上に作業に時間がかり計画通りにはいかなかったため、一斉に手本を見せるとか大幅に予定と遅れている生徒を十分に把握し指導していただくなど、効率的に取り組んでいく。
外国語(英語)	3年生に進級して、基礎的な単語力や文法など少しずつ定着してきたように思われる。復習確認テストの結果からは「英文の大意をつかむこと」が昨年度より課題となっているので、まとまった英文を読む・聞く機会を増やしたい。授業においては落ち着いて取り組むことができているので、授業で学習した文法・単語を反復練習し、自分の力で英文を書く、内容をまとめるといった学習を取り入れる。	・単語テストや短文の暗唱テストを定期的に行い、基礎・基本の定着から応用へと発展させる。 ・長文問題に慣れるために時間を決めて「英文の内容を理解・要約する」といった練習を定期的に行う。 ・会話練習などもパターン化した練習から自分の思いを伝える、自分の言葉で伝えることを目標とする課題に取り組む。	・基礎基本の定着から応用・受験へと継続させることができた。長文問題への対応も少しずつ量を増やし、全体を把握することを目標に意識を高めることができた。 ・会話練習では文法中心となってしまう、「自分の考えや思いを伝える」という点では十分な成果が得られていない。
道徳	・道徳の資料や読み物から、道徳的諸価値を理解し、自分の生き方や考え方に反映させようとする生徒が多い。 ・授業で身に付けた道徳的諸価値を実生活の行動に移させていくことが課題である。 ・話し合いの場では、特定の生徒に発言が偏ってしまうことがある。	・実生活の行動に移していくために、一人一人が主体的に考え、深く学ぶための時間を確保する。ワークシートの記述時間を多く設定することや、フィードバックの際にさらに深い学びを促すための声かけを行う。 ・タブレットのアプリなどを活用して、自由に意見を発信できるような活動を取り入れる。	・ワークシートの記述や発言の様子から、道徳的価値を自分の生活にとらえることができる、やろうと考えている生徒が多く見られた。 ・発言が苦手な生徒でも意見が出せるようにタブレットを有効に活用することができた。映像資料なども取り入れ、より深い学びを行うことができる環境をつくりたい。
総合的な学習の時間	各テーマの学習においては「自分で調べ発表すること」でまとめる力、表現する力を伸ばしてきた。3年次は単なる知識の伝達だけでなく、自分の進み道や自分の存在など「自己の考え」を伝え、その上で他者の異なる意見を受け入れ、共に生きる姿勢を身に付けさせたい。	前半は「日本の伝統文化」「卒業後の進路」に重点をおいて学習を進める。修学旅行を通して身に付けた知識や体験や進路学習の中で考えた自分自身の特性や考えを社会の中で発揮してゆく能力・態度を身に付けることを目標としたい。後半は「人権」をテーマに学習を進める。昨年度より「共生」について考えてきたが、人権に関わる問題をさらに深く取り上げ、自分たちの生きる社会において「命」や「他者との関わり」がいかに大切かを考えさせたい。	・修学旅行や進路学習を通して自分の体験や経験をもとに考えることができた。この学習を活かして自分の可能性を伸ばすことが卒業後の目標となる。 ・人権学習も15のテーマから題材を選び、その概要を学ぶことで、自分自身の考えや社会の中の自分を模索する良い機会となった。